兼隆館 夜襲経路(概略版)　『吾妻鏡』準拠

Ⅰ.[夜襲までの経緯]

1. 「保元の乱」(1156)＝後白河天皇方で、平清盛・平盛兼/信兼・源義朝/頼朝・源頼政/仲綱等勝組
2. 「平治の乱」(1159)＝源義朝/頼朝一族討死、頼朝伊豆流罪。
3. 治承3年(1179)1月19日＝平時忠の別当就任(三度目)当日→配下の検非違使兼隆公を伊豆流罪。
4. 治承4年(1180)5月26日＝「以仁王令旨」で頼政・仲綱一家が蜂起するも討死。
   時忠が伊豆知行国主、国司に時兼(養子)、判官に流罪人兼隆公が就任。
5. 治承4年(1180)8月17日＝頼朝が蜂起し、兼隆公館を夜襲。
   嫡子の兼隆・兼光・堤信遠の三名のみ討死。兼隆公は僅か50日間の判官職。

[頼朝公山木館夜襲之圖]　一恵齊芳幾＝歌川国芳(1798-1861)門下

山木兼隆館 夜襲時系列：治承4年(1180)8月17日

★吾妻鏡にある46騎で想定する

名称	時刻	内容
北条時政 館	6:00	16日中に集合予定の三浦一族、佐々木兄弟合流出来ず待つ(15,16暴風雨)
	10:00	朝から安達藤九郎盛長が頼朝の代理で御詣りし兼隆館の状態を覗き見。
	14:00	佐々木兄弟の到着(陸路、15,16日の酒匂川増水の為遅れる)
		三浦一族は海路不順で合流できず～いつ挙兵するか？
		18日：頼朝の守護仏(聖観音)供養日、19日：挙兵計画の露見？→夜襲決定！
	20:00	兼隆館下人(政子の召使と恋仲)を捕え兼隆館の様子を伺う→三嶋大社例祭
		→黄瀬川宿で遊興→普段の1/3程度、30数名の家来のみと判明
		普段成人男子90名/成人女性30名/子供15名の計135名の居住域相当広い？
	23:30	時政は目立つので蛭ヶ島路を通る VS 頼朝は大義なので大道を行くべし
		住吉昌長(祈祷師)を同行させる。(初陣襲撃隊43騎+祈祷師1名+案内人1名)
頼朝夜襲隊	23:45	月明りで昼の様な明るさの中、北条館出陣大路を北上、原木を通り右折
	0:00	牛鍬大路を東へ進軍、肥田原で二手に分かれ「堤館」「兼隆館」を目指す
		時政が堤館襲撃班15騎+案内人と山木館襲撃班28+祈祷師に分隊
		堤館→佐々木定綱・経高・高綱ら(15騎)源藤太の案内で堤館(東500m)へ
		兼隆館→北条時政・宗時・義時・宗政ら(28騎)は東の兼隆館へ
堤信遠 館	0:10	佐々木定綱隊15騎+1名は、源藤太の案内で堤館着。経高が一矢を放ち開戦
		(正面から経高ら9騎、源藤太の案内で裏手に回る定綱・高綱ら6騎)
	1:30	苦戦したが堤信遠を討取り、急ぎ山木館へ向かう
山木兼隆 館	0:30	館前の天満坂まで進み北条時政・宗時・義時・宗政ら(28騎+1名)が襲撃
		北条時政ら10騎は正面は避け、側面山肌を這い登る
		北条宗時ら11騎は正面から
		土肥実平ら7騎は屋敷の裏口へ廻り三方から襲撃
		兼隆館は寝込みを襲撃されたが必死の防戦で拮抗する
北条時政 館	1:00	頼朝は舎人、江太新平次を木に登らせ、火の手の見張りに付ける
頼朝の護衛	1:30	一向に火の手があがらず、あせる頼朝は護衛の三名佐々木盛綱・加藤景廉・
		堀親家を援軍に出す。三人は徒歩で蛭小島路を兼隆館へ急ぐ。
山木兼隆 館	1:50	佐々木定綱隊15騎+1名、山木館の夜襲へ参戦で形勢優位になる
	2:00	佐々木盛綱・加藤景廉・堀親家(3騎)も参戦し俄然優勢
	3:00	兼隆、兼光(長男)討取り館内検分…兼盛の記載無
	4:00	館内検分し火を放つ
	5:00	兼隆館を全焼失を確認し帰路につく
北条時政 館	5:45	夜明け頃北条館へ凱旋46騎+2名(死者無、軽傷者数名)
		頼朝が縁側で首検分